

〔質疑〕白石城復興について、補助がない場合、どのように再建していくのか。

〔答弁〕白石市の復旧については、白石市民のシンボルでもあることから、いろいろな方面への要望を続けてきたが、国の第3次補正でも難しい状況である。

しかし、まだあきらめてはおらず、第4次補正があるのかどうか。または、大手企業の福祉財団が被災地支援として財政支援を行うという制度も少し出てきている。そういった方面もねらいながら、最悪の場合には、市単独でやらざるを得ないと覚悟は決めている。できれば年度末ぎりぎりまでに最終的な判断を下しながら、平成24年度にはぜひ復旧したいと思っている。

〔質疑〕介護基盤緊急整備特別対策事業は、小規模多機能型居宅介護施設へのスプリンクラーを設置するための補助だと思うが、市内のどれぐらの事業所が対象となるのか。また、今後、例えば小規模多機能型居宅介護施設以外の事業所にも支援などを考えているのか。

〔答弁〕消防法改正により、泊まり、通い、ヘルプ訪問という3つの機能を持った小規模多機能型居宅介護施設にスプリンクラーが必要となったため整備するものである。

市内には5カ所のグループホームがあるが、今回のスプリンクラー設置により完了となる。

〔質疑〕太陽光発電システム設置工事について、第一小学校に設置を決定した理由は何か。

〔答弁〕環境教育という観点から、新学習指導要領等に基づく総合的な学習の時間や、小学校の3年・4年の社会、あるいは小学校4年・6年の理科等の授業の中で取り入れていきたいというのが、ひとつの大きな理由である。

もう一つの理由として、防災機能を持たせるということと、市内の避難所ということとで考えた場合に、小学校となると一と二小ということになる。そのうえ、太陽光パネルを屋上に上げる事を考えると第一小学校の屋上が適しているかと判断したものである。

特別委員会活動報告 主要幹線街路等建設促進特別委員会

委員長 志村 新一郎
副委員長 平間 知一
委員 沼倉昭仁・佐久間儀郎
保科 惣一郎・安藤 佳生

11月16日に関係部課長等の出席を得て、市内国道4号4車線化、都市計画道路「白石沖西堀線」等の現状及び進捗状況について報告を受けた。

はじめに、国道4号4車線化については、現在大河原・蔵王町間の工事が進められているが、大平から福島県境までの約10キロメートルについては、2車線区間のため、冬期間や高速道路の通行不能時には大渋滞となるため、4車線化の早期実現と除雪体制の強化について、関係機関への要望活動を行う予定であると説明があった。

次に、国道113号については、当市の区域は、小原から白川までの23・1キロメートルであり、現在震災で遅れていた小原地区の歩道設置工事がま

もなく完了する予定であると説明があった。

また、今後の課題として、小原1号トンネルから福岡蔵本間の約1キロメートルの道路改良及び巨理町交差点の渋滞緩和対策について、東北地方整備局・大河原土木事務所等に対し要望活動を行う予定であるとの説明があった。

次に、国道47号については、震災により深谷地内で災害が発生し、応急の復旧はしているが大雨警報の際には通行止めとなり、土砂流失防止等の根本的な復旧が望まれており、国道47号整備促進期成同盟会と連携した要望活動を予定していると説明があった。

最後に、JR白石駅前から国道113号までの都市計画道路「白石沖西堀線」整備計画の経緯についての質疑に対し、近年、市街地を通る国道113号の白石トンネルが開通したことから、巨理町交差点で朝夕の混雑が加速していること。白石駅前から国道113号に抜ける路線は、一方通行で特に狭く、通勤・通学など多くの市民に不便な状況が発生して

いることから、市街地の円滑な交通流動を確保するとともに、白石駅周辺を初めとする中心市街地の活性化に資するものであるとの説明があった。

また、本計画の進捗状況については平成24年度の新規事業採択に向け宮城県と事前協議中であるが新規事業としての内諾を得ており、協議終了後年度内に地元説明会を予定しているとの説明があった。

本特別委員会としては、今後都市計画道路「白石沖西堀線」など調査事項の整備促進に向け、市当局との連携を図りながら、時宜を得た調査活動を行っていくことを確認したところである。



白石沖西堀線